

外国語科英語学習指導案

学 級： 1年2組 32人

場 所： 1年2組 教室

指導者： 教諭 川俣 治香

教諭 有馬 倫子

1 単元名 SUNSHINE ENGLISH COURSE 1 My Project 2 人を紹介しよう

2 単元について

(1) 教材観

本単元の題材として、インターネット上の歌手である初音ミクを例として自分の身の周りの人や好きな人物についてスピーチする活動が扱われている。

言語材料としては、人称代名詞、疑問詞、三人称単数現在形、助動詞 **can** などを学習してきている。これまでに学習してきた文、文構造及び文法事項を確実に理解、定着させ、それらを使って表現できるようになることが重要である。本単元の題材や言語材料から、身近なことを英語で表現することに意欲をもっている生徒たちにとって、コミュニケーションへの興味・関心を高めるために適した題材であると考えられる。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、全体的に明るく活動的な雰囲気をもっており、特に「聞くこと」「話すこと」に対する生徒の意欲は向上が見られ、積極的に活動している。しかしながら、生徒一人一人の知識の定着や各技能には差異が見られ、英語学習に対して苦手意識をもつ生徒もいる。そのため、生徒一人一人の必要に応じた指導を行いながら、表現活動の際にはペア活動やグループ活動等を取り入れ、互いに認めたり、高め合えたりするような学習形態を工夫するようにしている。また、帯活動などを通して、学んだことを繰り返し活用する場を設けることで、学んだ語彙や文構造を定着させるよう取り組んできている。今後は帯活動において定着させた表現等を活用し、4技能のバランスを考慮した学習に取り組ませることが必要である。

(3) 指導観

題材の特性を生かし、自分の身の周りの人を紹介することができる力を育成したい。そのためには、まず人を紹介するために必要な基礎的・基本的な語彙や表現を身に付けさせる必要がある。その上で、自分の好きな人物について、自ら語彙や表現を選択し、紹介する活動に取り組ませたい。具体的には、疑問詞を用いた疑問文、三人称単数現在形、助動詞 **can** を用いた英文を帯活動Ⅰの **Q and A** で効果的に活用し、人の紹介において戸惑いなく質問したり応答したりすることができるよう指導していきたい。

また、関心のある事柄について、相手からの質問に対し、その場で適切に応答したり、関連する質問をしたりして、互いに会話を継続したい。そのために、帯活動Ⅱの **Speech Training** を活用して、言語の使用場面と言語の働きに気付きながら、人を紹介する時に使える表現を繰り返し声に出す活動を行わせたい。

言語活動においては、生徒一人一人の必要感や課題によりよく対応するために、ICT の効果的な活用や少人数指導を取り入れている。また、単元や授業の最初の段階で、どのようなことができるようになればよいのか見通しをもたせたり、ペアやグループでの活動を取り入れたり、自分の学習状況について振り返る場面も設定させたりしている。このことにより、生徒同士が互いに関わり合いながら、分かりづらかった表現を確認したり、聞き手に分かりやすい語句や表現を調べたり考えたりする活動を取り入れたりするなどの意見交換等を通して、見通しをもって学習を進められるようにしてきている。

3 単元の目標

- ペア活動を通して、間違いを恐れず積極的に好きな人物についての紹介文を書いたり、話したりする態度を育てる。
【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- 既習の表現を用いながら、聞き手を意識して好きな人物のことについて表現できるようにする。
【外国語表現の能力】
- 好きな人物についての紹介文を読んだり、聞いたりして理解できるようにする。
【外国語理解の能力】
- 好きな人物について紹介する定型表現を理解させるようにする。
【言語や文化についての知識・理解】

4 単元の指導計画

(1) 評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
① 間違いを恐れずに好きな人物について紹介する文を書いたり話そうとしたりしている。	① 既習の表現を用いて好きな人物について紹介文を書いたり話したりすることができる。	①好きな人物について紹介する文を読んだり聞いたりして、その人物の趣味や好きなことなどについて理解することができる。	①好きな人物について紹介する定型表現を理解している。
② 既習の表現、教科書の本文や辞書等を用いて表現しようとしている。	② ジェスチャーや表情などを使って好きな人物のことを相手に伝えることができる。		

(2) 指導と評価の計画

時間	指導内容	評価規準
1	【目標】 単元の見通しをもとう。 ○ 帯活動Ⅰ Q and A ○ 帯活動Ⅱ Speech Training ○ 単元の学習計画の確認 ○好きな人物紹介文の構成理解	ウー①
2	【目標】好きな人物を紹介するスピーチ原稿を作成しよう。 ○ 帯活動Ⅰ Q and A ○ 帯活動Ⅱ Speech Training ○好きな人物紹介原稿作成	アー①,② エー①
3	【目標】聞き手によりよく伝えることを意識して好きな人物を紹介しよう。 ○ 帯活動Ⅰ Q and A ○好きな人物紹介の発表練習・個人録画撮影 ○ ペアによるアドバイスタイム	イー① イー②
4 (本時)	【目標】友達の発表を見てお互いにアドバイスし合い、好きな人物紹介をよりよい表現に仕上げよう。 ○ 帯活動Ⅰ Q and A ○ ペアによる相互評価と発表練習	アー① イー①,② ウー①
5	【目標】ALTの先生や友達に英語で好きな人物を紹介しよう。 ○ 帯活動Ⅰ Q and A ○好きな人物紹介の発表(録画) ○好きな人物紹介文の完成	アー①,② イー①,② ウー①

5 本時の実際 (4 / 5)

(1) 単元名 SUNSHINE ENGLISH COURSE 1 My Project 2 人を紹介しよう

(2) 学習目標

- 学習してきた語彙や表現を用いて、間違いを恐れず、人物紹介のスピーチを積極的に行うことができる。
- 聞き手を意識しながら、好きな人物紹介のスピーチをすることができる。

(3) 「判断基準」の設定

学習課題：友達の発表を見てお互いにアドバイスし合い、好きな人物紹介をよりよい表現に仕上げよう

評価規準	○ これまでに学んだ表現を用いて、聞き手を意識した文章構成で、好きな人物を表情豊かに紹介するためのスピーチを行うことができる。
評価の場面	○ 展開時における好きな人物を紹介する発表をし合う場面。 ○ 終末時における振り返りシートの記述内容。
評価の対象	○ チェックシート、振り返りシート
判断の要素	ア 好きな人物について紹介する表現の活用 イ 聞き手を意識した文章構成 ウ 発話の量 エ 聞き手を意識した伝え方
判断基準B	ア 人物を紹介するための既習事項 (be 動詞・一般動詞・代名詞) を利用している。 イ 始めと終わりのあいさつや相手を引きつける問い掛け等が入っている。 ウ 7文以上で話している。 エ 聞き手を意識して、声量や速さ、発音に気を付けながら、気持ちが伝わるように分かりやすく表現している。 【予想される生徒の表現例】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">Hello. Look at this picture. This is Honda Keisuke. He is from Osaka. He is a member of CF Pachuca in Mexico. He plays soccer very well. He is good at free kick. I love his playing style. I often watch him on TV. I want to be like him. Thank you.</div>
判断基準A	(判断基準Bに加えて) ○ 既習事項を活用し、多種にわたる言語材料を使用している。また、聞き手の反応を見ながらうまく間をとり、相手を引きつける問い掛け等を効果的に使用している。

(4) 研究の取組

ア「見通し」・「振り返り」の手立ての工夫

(7) 知識・技能と思考力・判断力・表現力等を一体的に育成する課題設定

学習課題の設定においては、次の点に留意した。まず、1学期に行った自己紹介スピーチで学んだことを活かすことである。これまで、自分のことについて紹介する表現や聞き手を意識した文章構成や伝え方を習得してきた。スピーチ特有の文章構成や発表の仕方を、好きな人を紹介するスピーチでも活用し、より伝わりやすいスピーチになるよう工夫した。また、本単元に入るまで既習事項として三人称単数現在形やbe動詞など人物を紹介する表現を学習してきた。本単元においてスピーチで活用できるような表現を繰り返し練習させる帯活動の工夫も取り入れることで、習得した言語材料の中から適切な表現を選択したり、工夫したりすることができる学習課題にした。

(イ) 自覚・方向付けを促す振り返りシートの活用

1単位時間や単元終末の段階で振り返りシートを活用し、自分の表現の高まりや改善点とともに、自己の変容につながったきっかけなどについて記入させる。また、そのことが新たな学びへつなが

るよう支援する。

イ 積極的に交流・探究させる手立ての工夫

(7) 知識・技能と思考力・判断力・表現力等を一体的に育成するワークシートの活用

単元終末の表現活動に必要な語彙・表現等の言語材料や表現形式の活用を促すワークシートを帯活動で使用する。

(i) 話し合い活動の場の設定

教師と生徒が「判断基準」を共有することで、ペアでの話し合い活動の視点を明確にし、話し合いの活性化や適切な自己評価、相互評価につなげる。

(5) 展開

過程	時間	形態	学習活動	指導上の留意点	研究の取組
導入	7分	一斉・ペア	1 あいさつをする。 2 帯活動(Q and A)に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 明るい雰囲気での授業が始められるようにする。 ・ ペアの相手がいるか確認し、ペアがいない場合は教師が支援を行う。 	<p>イー(7)</p> <p>知識・技能と思考力・判断力・表現力を一体的に育成するワークシートの活用。</p>
展開	7分 28分	一斉・個別 ペア	3 本時の目標を確認する。	<p>友達の発表を見てお互いにアドバイスし合い、好きな人物紹介をよりよい表現に仕上げよう。</p>	<p>アー(7)</p> <p>知識・技能と思考力・判断力・表現力等を一体的に育成する学習課題の設定。</p>
			4 本時の流れを確認する。 5 前時までに作成した好きな人を紹介するスピーチ原稿の修正点などを振り返り、発表練習をする。 6 ペアで好きな人を紹介するスピーチを発表し合い、お互いにアドバイスする。		
<p>Hello. Look at this picture. This is Honda Keisuke. He is from Osaka. He is a member of CF Pachuca in Mexico. He is good at free kick. I love his playing style. I often watch him on TV. I want to be like him. Thank you.</p>					
終末	8分	個別 一斉	7 本時の学習内容を確認する。 8 次時の学習内容を知る。 9 あいさつをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りシートを用いて学習したことを確認させる。 ・ 今後の見通しをもたせ、次時への学習意欲を喚起する。 ・ 元気よくあいさつさせる。 	<p>アー(9)</p> <p>振り返りシートを用いた学習の気付きや感想のまとめ。</p>